

「神の御意思に添って」

(昭和四十年 七月発行)

神は世の中の人間が仲睦まじく暮す情の世界を造られて
いるのである。これが神の経綸である。人を怨むとか、嫉
むとか、狭い心は神の御意思に反している。

地上の萬物は悉く神の御意思によって生みなされてい
るから、この世は神の世なのである。この有り難い神世に居
住しているのであるから、人として神の御意思をきわめ、
萬物を尊び、粗末にすることなく大切に取扱い、天地萬物
に感謝して生活に生きなければならぬ。神の御意思は地
上を照らして萬物を愛し御守護下されている。この尊い真
実を知ってはじめて人となるのである。天地萬物の力によ
って一日の日を明るく迎えることが出来る。

人をはじめ萬物は各々様々に生成しており、天命に従って
その職を果たすことが使命である。使命を果たすことによ
って宇宙萬物一体となった意氣に乗ずるならば、人はこの上
ない幸福な世を送ることが出来る。今日は知識人の力によ
って人造道德の道を歩いており、知識道德を強化することに
専念している。一刻も早く、天の御力を鏡として、己が心
に一日も早く、宇宙萬物の精神を受入れて更生しなければ
ならない。